

広 報

のほろべ



春を呼ぶ——菊田由紀子さん（幌別町1丁目12番地）

—主な掲載内容—

- 年頭のごあいさつ (2)
- 登別高校～カルルス間、バス運行開始(2)
- 新春放談「巳年にかける夢とまちづくり」 (3～5)
- 随想 岩原秀夫、菊地雄峯 (6～7)
- 市民文芸 (8)
- 郷土史探訪、マンガ (9)
- ゴミの回収に協力を (10)
- しっかりと落としてください—水道の水— (10)
- マチの話題、成人式、スポーツ短信、ご寄贈ありがとう (11)
- おしらせ—保育所入所児募集、来福橋は通れません、野犬掃とう、股関節脱臼検査 (12)

昭和52年
1.1～15 合併号

あけましておめでとうございます



登別市議会議長 室 久 吉

市民のみなさん、あけましておめでとうございます。輝かしい昭和五十二年の新春を迎えて、ますます今年もみなさまのご健康で、ご繁栄であることをお祈りいたします。

昨年は、集中豪雨による大災害をはじめ、外国資本による大企業の本道進出問題、さらにはソ連漁船団による漁業被害など、まことに多事多難でありました。

市民のみなさんは、深刻で暗い思いの多かった一年ではなかったかと推察しております。しかし、このような情勢のなかで、新たに道立高校建設の決定によって、教育の充実が図られ、また、ご承知のとおり、快適な市民生活がでる都市建設を目指して諸施策が次々と進められ、道内の中堅都市として躍進しておりますことは、まことに喜ばしいかぎりであります。



登別市長 田 村 仙一郎

市民のみなさん、あけましておめでとうございます。昭和五十二年の新春を、五万三千登別市民のみなさまとともに迎えてきたことを心よりお喜び申し上げます。

昨年は集中豪雨による災害をはじめ、ソ連漁船団による漁業被害など、多事多難な年でありました。

しかし、このような情勢の中にあつて、市民みなさまのご協力により道立高校新設の決定をはじめ、青葉小学校、若草幼稚園、登別温泉保養所、公営住宅の建設あるいは市道の舗装など、生活環境の整備が図られ、「快適な市民生活がでる都市」として、また道内の中堅都市として躍進しておりますことは、まことにご同慶にたえません。

さて、最近のわが国の経済は、四十八年の石油ショックを契機としてインフレは急上昇し、

そのあたりは市民生活に深刻な影響をあたえるとともに地方財政にも異常なインフレ下の不況という形で財政を極度に圧迫する要因となつております。

このような日本経済全体を包む矛盾は、一自治体の力で解決できるものでないことはたしかであります。

しかし、それゆえにこそ自分たちのもつとも身近かな自治体に対する市民の期待もまた高まつており私はいまこそ自治体の権限と能力を最大限に發揮して市民生活を守るとともに、五万三千市民の英知と創意を結集し、限られた財源を有効かつ高率に活用して、職員ともども「住みたくなる登別」、「任んでよかった登別」の建設に邁進する所存でありますので、市民各位のご協力を切にお願ひ申し上げます。終りにみなさまのご健康とご多幸を祈念し新年の挨拶とします。

さて本年は、景気の動向がなお流動的であり、市民生活も依然として厳しいものと予想されます。

私ども市議会にたずさわる者として、この困難な経済情勢のなかで重大な試験に直面しておりますが、住民福祉は一日もゆるがせにできません。

今日、多様化する住民要請のなかで、この福祉充実に全力を注ぎ五万三千市民の負担にこたえる決意であります。

この登別市を豊かな地域社会につくりあげる原動力は、市民のみなさんの創意と努力にはかありません。自覚と連帯意識を高め、あすの街づくりに取り組まれんことを期待してやまないものであります。

新しい年のはじめにあたり、所信の一端を申し上げ年頭のあいさつといたします。

あけまして

おめでとう

ございます

市民のみなさまに対する、議員個々の年賀状の差し出しは、議員会の中し合せにより自粛させていただきます。

登別市議会議長一同



登別高校～カルルス間

バス運行開始 (12月19日から)

登別高校発	7時30分	登別温泉行
登別温泉発	18時00分	登別高校行
登別高校発	9時10分	カルルススキー場行
カルルススキー場発	15時30分	登別高校行

道南バス



市民と市長がヒザをまじえて……新春放談

新春放談

年男の市長
市民と語る

已年にかける夢とまちづくり

- ご出席(敬称略)
- 中林豊次 公平委員長、教育委員、体育協会副会長、剣道会長
 - 小西豊子 主婦 緑町一―十四
 - 吉田 亨 青年会議所理事長 千歳町三一四
 - 登別市長 田村仙一郎
 - 司 会 公聴広報課長 千葉 勲

資金面での 苦労は大変?

司会 みなさんあけましておめでとございます。

さっそく、新春放談とまいりたと思います。初めに市長からみなさんにあいさつをおねがいます。

市長 新年早々、私共のためにおいでいただき、本当にありがとうございます。

昭和五十二年の新春を今むかえたわけですが、私達の登別市の将来を考え、みなさんと共に、どのようにして街づくりを進めていくべきかを、話し合ってみようと思います。

どうぞよろしくお願いします。司会 それでは、中林さんから最初の口火を切ってもらいたいと思います。

中林 私が登別市に住みついて

新しい昭和五十二年を迎え、三人の市民代表に、市長就任後の実績評価、のぞまれる登別市の将来構想などについて、田村市長の考え方を聞いていただきました。『新春放談』と銘打つての今回の座談会は、市長応接室で約一時間にわたって開かれましたが、大型公共事業、市民のためのアイデア施策、対話行政、教育のあり方、行政と市民生活、広域都市構想、そして年男である市長の今年の抱負など、次々と話が展開されました。

から、三十二年になります。この市長応接室にも、歴代の村長、町長、市長の顔写真が掲げられておりますが、三十年間の登別市の進展の状況を肌で感じており特に、田村市長になってからの飛躍的な発展ぶりには、過去には見られなかったものがあります。特に、道路舗装、排水溝、高層の公営住宅などの大型事業、また教育施設の整備も次々と実施され私の住んでいる登別地区にも、四十戸の公営住宅が今建設中です。その行政手腕を、たのもしく思うと共に、大変うれしく思っています。最近の地方財政の悪化から、資金面での苦労も大変だと思

います。こうした、財政運営についての考え方を伺いたいのですが、市長 今、公共事業のお話がありました。例えば、道路舗装の場合ですと、ひとくちにいうと、市民の積極的な理解と協力があつたからこそ、これだけの舗装ができたのだと思います。ただし、街の中でも、繁華街であっても、未舗装のところが残っています。これはなぜかといえます。私道であつて、協力が得られない場合、あるいは、低当座などの権利関係が設定されているために、市では手をつけられないと

いったことがあるからです。このことは、道路だけに限らず学校建設、公営住宅などの建設についても、市民の理解と協力がなければ事業が先へ進みません。さて、これらの大型事業を実施しているわけですから、当然、財政問題が重要な課題となってくるわけですね。

日本全体の景気が停滞し、市民生活、地方財政の苦しい中ですから、心配されるのは当然のことだと思

います。そして、最近の物価高と矢つぎばやの公共料金の値上りの上に、登別市もこれに便乗して、市税、手数料を値上げしていったら、さらに市民生活を圧迫することになるため、値上りはできるだけ抑えていきたいと考えています。このように、大型各種公共事業を実施する一方で、その裏付けとなる市の税金等の引上げ抑制のため財源の延びが期待できないといった、収支のアンバランスをどのように調整しているかということですが、市の全職員が徹底した節約、例えば電気料、水道料、消耗品等を削減したり、無駄な出張はやめさせるといったことで、財源を生み出すなど、知恵をしぼって各方面での見直しをする。もう一つは、今の不況時ですか

死亡事故につながる
飲酒運転は絶対にやめましょう。





登別市に住みついて32年、マチの進展のようすを肌で感じていると中林豊次さん

ら、業者は仕事が欲しい。たくさんの人を遊ばせておくわけにいかない、利益を追求することよりも先に仕事をしなければならぬわけですから、市では経済的な事業発注ができるわけです。

さらに、市内の景気対策にもなるわけですが、今の経済状態の中では、他の地方公共団体は事業を手控へ、国も総需要抑制策で予算は少ないため事業は少ない。

そこで、登別市では知恵をしぼり、検討を重ねた結果、できるだけ事業量を増やし、登別市内の業者を最優先にして、仕事をやっていただくことにしたわけです。

施策のアイデアはどこから

小西 市長になられてから一年半の間、市民市恩金、たばこ消費税の増取策、二歳児歯科検診、それから、今年には私共も大根抜きに協力させていただきましたが、老人農園とか、健康手帳、老人大学など、本当に市民のためになる数



今年の青年会議所は「地方自治を見直し自治意識の高揚を」スロガンにと吉田亨さん

多くのアイデアが、次々と実行に移されました。こういったアイデアのヒントを聞かせてください。

市長 私は常に、職員との対話をすすめており、五百数十名もの職員がおりますから、市民がのぞむ事業、市民の心が通い合う施策は何かと呼びかけ、いろいろなアイデアが出てきます。

その中から、各種の「市民対話」を行ない、市民の皆さんの意見を集約検討し、これならいけると思ったものを、タイミングを見て実施するということになっており、一人だけのアイデアが次々と出されるというわけではありません。

市民の市恩金については、いろいろと異論がありました。私は基本的に、市政の主人公は市民であり、市は市民のために奉仕するという考え方に立って、市民が不幸にして亡くなられた時に、市恩金を表わすのは、間違ではないと

考え、議会では二回否決されましたが、考え方は正しいということに頑張り抜き、議会の協賛を得て市恩金条例ができたわけです。

こうしたことは、他にあまり例がないことですから、今では全国各地からの問い合わせがあり、市民からも非常に喜ばれています。

それから、たばこ消費税につきましては、たばこを多く吸って下さいということではなく、制度の中でたばこを市内で買っていただく、全く徴税費をかけないで百分収入されてくるものから、どうせたばこを買うのであれば、市内で買ってくだささいと呼びかけるため工夫をこらしたわけです。

老人農園は、単に大根を作るために開いたのではなく、お年寄りの健康を守ろうということが目的で、自然に恵まれた空気のきれいな所で、遠足にでも行ったつもりでいろいろな事をしようということとです。

それで、試みとして野菜作りをお年寄りにしていただいたので、収穫祭の時には、老人クラブはもとより、婦人会、町内会、自衛隊の方々に集まっていた。大根抜きをしても良かったのですが、お年寄りに対する敬老の気持ちや市民同志の和が生まれるなど多くの市民に喜んでいただくことができました。

それから、今のお年寄りは、戦前、戦中、戦後と一番ご苦労されてきたし、登別の基礎を築いてくれた方々ですから、大切にしたいわってあげなければならぬと思います。そこで、老人健康手帳や老人大学などのアイデアが、みんなと話し合った中で出てきたわけです。

中林 たしかに、これらのアイデアでお年寄りは、老後の生きがいを感じていたと思います。

市民との対話のあり方を

吉田 このような場違いの所に青年会議所の代表ということ出席させていただきましたが、ひとつ失礼させてもらいます。

今年の青年会議所の全国的なテーマは、「地方自治を見直し自治意識の高揚を」というスロガンを掲げているわけですが、その意味におきましても、今後市長との話し合いを数多く持ちたいし、市民とのコミュニケーションの場を持ちたいと思います。

今、市長が最優先事業ということと、市民との対話を続けていますが、街へ出ていって数多くの市民との話し合いをされ、一年半の間いろいろなことに気が付かれたことと思います。

この対話を今後どのように進めていくかについて、お考えがありましたら聞かせてください。

市長 市民との対話は、市政をすすめていくうえで、最も大切なものと思っています。

そこで、私は対話というものは、堅苦しいものではなく、気軽な姿勢で、友達同士や近所付き合いで話し合いでもするように進めていくべきだと思います。

このほかに、市民便利帳は、日常生活の中で、市役所とのかかわりのあることが、広く掲載されていて大変良いものを作ってくれたものだと思っています。

小西 本当にそうですね。町内会の集まりの時にみなさん喜んでいました。

司会 吉田さんから何かご発言をどうぞ。

お互いの気持ちを通じ合う、気軽い対話が必要であると思っておりますから、これまで実施してきた市政懇談会や対話集会での、地域問題などについての話は、道路、排水を早く整備してほしい、水道がないから早くほしい、といった要求であったり、市役所に対する苦情などですから、対話の目的からはどうか、と思います。陳情や苦情などでしたら、別に窓口を設けていますので、市議会議員の方や町内会組織の方を通じて解決の窓口を開いております。

市長との対話は、そう堅苦しいものでなく、市民と市長との間に壁を作るべきでないと考えます。

吉田 そうしますと、今の対話の方向は、ちょっと違った方向に向いているということでしょうか。

市長 そうですね。市政懇談会や対話集会での、かみしもを着たよそ行き言葉でのやりとりですとどうしても話が堅くなりますし、笑顔がないですね。

私自体、かみしもは脱いでいるつもりですから、これからは市民の方々にも協力してもらいたいと思います。

街を自然を美しく
吸いがらの投げ捨てはやめましょう。

Smokin' Clean

日本専売公社

市民の生涯教育はいかに

中林 話は変わりますが、先ほどの話にもありました前向きな公共事業の取り組みの中で、幼稚園の建設や、学校の新設、増設など教育施設の充実には、大変な努力がうかがえるわけです。

そこで、幼稚園から大学までにおける学校教育、あるいは社会教育ではあります、非常に大きな問題はありますが、市民の生涯教育はいかにするかにについて、市長の考え方を伺いたい。

市長 こういう言葉がありますね。「学びに終りなし」という人間は生まれてから死ぬまでの間学びには終りはないということですね。

そこで、私の教育に対する理想としては、教育施設の充実、教育環境の整備をまず先に、実施していきたいと思っております。

幼稚園は、とりあえず各地区に一カ所を建設しようということ、登別市では初めて、幌別、鷺別、そして登別温泉地区に、明年は登別地区にそれぞれ建設しますが、将来は児童の延びを見ながら、各小学校の通学区域に一園ずつ建設していきたいですね。

高校は、道立高校が新設されることになりましたから、市内で三校になります。

そうすると、次に短期大学あるいは大学を誘致しようとする考えが出てきてまして、少しずつ取り組んでいますが、一卒に実現はむずかしいため、時間をかけ前進したいと思っております。

大学は女子大学が必要であると思っております。

なぜかという、お母さんは子供を生み、育て、子供に知恵をさずけていきます。

幼児期から成長して独立するまでの、最も大切な教育は、母親の手によるものが非常に多い。



市民会館建設には私達婦人も何らかの形で協力していきたいと小西豊子さん

社会教育の面でも、郷土館や市民会館の建設など施設を考えていますが、これらは多額の費用がかかることから、一気に実現しませんが、基金を積立てることから、初めたいと考えています。

という考え方は、なおしていい要があるのではないのでしょうか。(一同、うなずいて納得)



社会のために「なるほど…」と思われるものを登別に」と田村市長

市長から市民に望むことは…?

小西 先ほど市長は、懇談会等のあつまりで市民の方からの要望がたくさん出されるといってお話がありました。市長から市民への要望は何がありますか。

市長 こういふ質問は初めてですね。私が市民との対話の中から感じることは、市民に望むこと以前の問題として、行政の仕組みとか、市政と市民生活とのつながりについて、市民の皆さんにもっとよく知ってもらいたいと思っております。この点を解決していくための機会を持ちたいと強く感じています。この間も、広報についての話し合いがあつて、ご婦人とゴミ問題

たばこ消費税などについて、市政と日常生活とは密接なつながりがあるという話をしてみたのですが、割と身近かな所にあつても、気がつかないで見過しているいろいろな事があるのです。

吉田 登別市の具体的な将来の構想について、広域的な都市圏構想、特に室蘭市との合併問題とその価値感などについてお聞きしたいのですが。

室蘭市との合併はあるか

これは、市職員にも長く気をつけてもらい、自分たちの事務を見直し積極的な市民への働きかけが必要であると考えますね。

市長 過去の地名改正を行なった時に、登別という名称について残したいとか、駅名改正の話が出ましたが、私は住民同士が円満に解決するという姿で、今の問題をなくしていきたいと考えます。

中林 将来の大きな観点に立つて、住民の意志を盛り上げて対処してほしいですね。

などを踏まえて、将来の見通しを立てる時、室蘭市と登別市はいろいろな点で、密接なつながりがある。切つても切れない状態であると思えます。

年男としての抱負を

中林 登別市の玄関口である幌別駅の駅名を登別と改め、登別駅は登別温泉駅とした方が良く考えています。

昨年、登別高校を受験するため地方から親子で登別駅を降りてしまったんですね。このほかにも多くの人々が間違っていますし、道立高校が新設されますと、また同じことが起きてしまいます。

市長 過去に町名地番改正を行なった時に、登別という名称について残したいとか、駅名改正の話が出ましたが、私は住民同士が円満に解決するという姿で、今の問題をなくしていきたいと考えます。

中林 将来の大きな観点に立つて、住民の意志を盛り上げて対処してほしいですね。

ら生活の根拠地を登別市に移してきていますから、この状態が続いていきますと、室蘭市は働く場所登別市は生活をする場所というように区別されてくるでしょう。

市民の健康を守るにはどうしたらよいか、もっと深く考え直していきたいし、もう一つは、教育を最重点的に考えていきたいですね。また、私六十歳までの過去を振り返りかえてみて、これまでに何を残したのだろうかと思つても、実は何にも残していません。ことに気がついているわけです。

そこで、社会のために大きなものを残していきたい。

後年になって私がこの世の中にいなくても、なるほどと思われるものを残してみたいと考えています。これを実現するには、物事の真偽を見極め、決断を下した中で力強く突き進んでいくべきだと思います。

随想

或る角度の夢

岩原秀夫



市民のみなさま明けましてお日出とうございます。

広報「のぼりべつ」の新年号に私ごとき皮肉屋が雑文を寄稿することは、時と場所をわきまえずの感がありますが、この町に五十年も住んできた市民の一人に免じて新年の偶感を聞いて頂きましようか。

それが結果的に、いい事か悪い事は別にして、登別市はスピードリズムをもってベッドタウン化が進んでおります。

同期会などに顔を出しますと、いつの間にか市民になっていく連中も多く「……所で、お前さんの市民意識は室蘭なのか、登別なのか」という問い、ほとんどが考え込んでしまうようです。

古くから経済活動の場が室蘭であった場合、彼の関心度は向う側にあるのは当然のことでしょうが



カットは脇坂憲治さん(千歳町六―四五)の作品です

奥さんを始めとする子供達は主たる滞在がこちら側であり、学校の問題、生活環境の問題などを通じて登別市民意識になじまざるを得ないはずでございます。

さてマイホームを建てた。住民登録もした。税金も払った。特別なことがない限りここを生涯の地と定めようと思つた時、人間はあらためて周囲を見直すものでございませう。

道路は整備されているか。雨が降ったら側溝があふれないか。ゴミの回収車はきちんと来るか。夜間の街路灯はどうなっているか。これは前に住んでいた地域がひどい所であったことに関係なく当然の権利として批判眼がランランとしてまいります。

何もかにも一挙にご要望に応じかねても、これらは行政を中心として政治、財政レベルで市民サービスをして行くことになりましよう。

人間の欲望は実に見事に次々とエスカレートして行くものでございます。

娘にピアノを習わせたいが近くに教師はいるだろうか。わたしは昔から短歌をやっているが、買の高い同好会があるだろうか。絵画、書道、工芸は、進学のためのじゅくは、家庭教師は、月に一度や二度音楽会や文学講演会はあるのでしょうか。ということになってくると幾つか満たされたいものもでて参ります。

それじゃあ、ご自分が世話役をかって出で、一つの市民運動を起こしてあげればまだ解決の糸口もありましようが、極めて直情的にして結論的なのが最近の傾向でして「うわー最低、文化不毛の地こんな所へ引越してくるんじやなかつた」と口害が波及して行きま

文化とは元来が定義が難しいものであり学問的にも広狭二つの意味に使われております。

前例は極めて狭い意味の例えば字間、評論、文学、芸術、芸能を指して、更に細分化された具体的なジャンルにおける精神活動の満たされざる不満を述べているわけでしょう。

確かにこの発展途上の登別市は工業都市隣接のベッドタウンとして新開地的な情緒不足の面がございます。

そこまで手が回りかねるほど、さしせまつた問題が山積し、悩み多きことは同情いたしますが、前例の主婦のようにヒステリックな嘯みつきは別としても、カサカサに乾いて色彩と香気を失った街にははいけません。

私はシーズン中、よく見知らぬ来客者と雑談をすることがありますが、「どちらからおいでですか」と聞きますと埼玉県千葉市の方々まで「東京ですよ」と答えることがあります。

これは田舎者相手に所沢市や鎌倉谷市の説明をしてもかえって面倒になることからの理由もございませうが「隣は何をする人ぞ」の無関心、無干渉になれている大都会の人達ですからベッドタウンの市民意識や誇りみたいなものを自ら捨てているのだと思ひます。

しかし一方「東京の国立市ですよ」とか「多摩ですよ」とスバリ言い切つてそのあと丁寧に説明してくれる時などは、何か東京という雑踏と騒音から離れ、緑が一杯あつて文化都市に住んでいることとのさわやかな誇りを感じさせます。

さてこの登別市も、眼に見える生活環境整備の外に、何か核となる都市づくりが必要なのはありますまいか。

それは市長さんの提唱される、スポーツ都市でも長寿健康都市でも構ひません。

ただ私は、マスコミに登場したりオピニオンリーダーとして活躍してはいても、いわゆる文化人として通用する市民が数多くいると思うのです。

この方々を一つのチームとして政治、財政レベルとは別に文化レベルでマクロ的視野から、市民のノウ・ハウをきちんと整理し文化都市づくりのビジョンを打ちたてることは非常に重要なことだと思ひます。

私はこんな初夢を見ました……とてもしやいな文化センターが完成しました。メインホールは音響も照明もエアリーコンデションも最新の折紙つきだそうです。

小ホールが幾つもあります。そこには地元で活躍している画家の個展や陶芸、木彫、書道などのギャラリーとしていつも何かの発表会が行われ市民の人気を呼んでおります。

また、この小ホールはピアノ教室、バレエ教室をはじめ茶道、いけ花などの婦人教室も毎月開かれております。

今日は大ホールで「中村敏子ピ

アノリサイタル」があり人口附近はかなりの列が作られています。こんなには混むのはその開幕に登別少年少女合唱団の新曲コーラス発表と、リサイタル後に劇團「ななかまど」の全道コンクール用試演があるからでしょう。

今日の盛況を利用して館内コンコースでは、登別ベントラブの若い会員さん達が二十号記念の「のぼりべつ文芸」を積んでチャッカリと販売していますが、本誌も号を追うごとに創作、詩、短歌、俳句、川柳など内容が充実し、新聞の文芸時評にも取り上げられ、市民の誇りの一つに数えられ随分と売れているようです。

壁には、既に決つたスケジェーブルが張り出してありますが、私は松本清張先生の文学講演「推理小説における本格論争」と、ついに待望久しかった小沢征爾指揮のサンフランシスコ交響楽団の登別公演という画期的な演奏会には、苦手なクラシックではありませんが、今から胸が躍るようです。

……たしかに愚者の初夢かも知れませんが、しかし、夢のない街に市民が古郷意識をもつたり、永住の地と定めたりはしないものなのです。

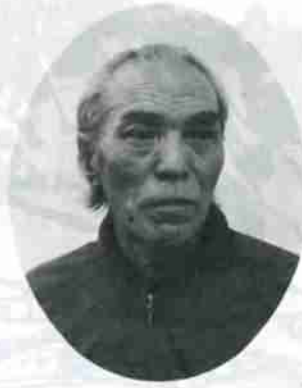
岩原秀夫氏

登別温泉専務取締役。大正十五年三月小樽市に生まれ、二歳の時から登別温泉町に居住。小樽高等商業学校(現在の小樽商大)卒業。地獄まつりの前設に尽力し第一回から第六回までの間、まつりを中心とした司会者として活躍。

現在、登別ゴルフ場、登別観光商事の取締役、登別グランドホテルなどの監査役として、その任務に当たっている。趣味は、ゴルフ、郷土史研究、創作。ご家族は奥さまと一男、二女の五人家族、お住まいは登別温泉町四十五番地です。

白秋追想

菊地雄峯



傍人有眼

この語は唐詩で、傍人とは「わたらの人」すなわち他人のことをいう。

他人の眼は怖いぞというのである。要するに人間は、誰も見ていないと思っても、うかつなことではできないぞという戒めの言葉で、私はおりにふれて額などに押毫（書や絵を書くこと）している。緩みがちな自分を、戒めるためである。

人間は傍人の眼を怖れなくなったら、もうお仕舞である。

力なくして進歩は有り得ない。誤字や脱字は、書者の一大恥辱であり、したがって作品の中に異質の混入がないか。形態の不均衡はないか。空間処理はどうか。調濁の変化は、とあらゆる角度から検討して、完成度を高めて書作するが、それでも傍人の眼が納得してくれるかどうかである。往々にして、独りよがりの作品ができてちなものである。

見知らぬ人が、会場の隅から隅まで、一点一点喰い入るようになって見ている人は、怖さを感じさせる。あるいは書に理解ある人が、たまたま登別にきて、ピラや看板を見て来観され、啓別の書道の傾向や、レベルの評価をされているかも知れない。

また、一流一派に偏した井戸の蛙では、戦中の国定書方手本による枠にはめこんだ書道教育の二の舞であり、個性尊重、古典追求、創意創作こそ、日本書道の源流と私は信じている。

そして、われわれ書者は、いつ、何処で、どのような参観者が訪れようとも、常にそれぞれの実力に応じ、一枚でも多く書きこみ、古意と個性豊かな作品を発表し、いたずらに傍人の眼をさげることなく、堂々と自分の丸裸の姿をさらしていたころとする謙虚な態度を忘れてはならない。

言語、動作にしてみてもまた然りだが、あまりに意識しすぎては何事もできなくなるので、人間として当り前のことを、当り前にふるまえば良いのだが、なかなか難しいかもしれない。

書道もそれと同様に、傍人の眼の怖さを感じないでは進歩がない。書く以上は、人間性と合せて向上を図らねばならないし、年々別な古典を研究し、それを土台に創作して前回と傾向の違った作品を発表することが、進歩であり、苦勞でもある。

八月の末頃だったか、市内の元老から、富浦にある天然湧水の記念碑を建てるので、碑文を書いてほしいとたのまれた。

碑文の歌詞はどなたの作か元老もご承知ないようでしたが、内容は湧水を恋の泉として作詞され、清らかな姿を、一つの世までも絶えることのないようにとの願いがこめられていて、とても好感がもてた。

富浦は、素晴しい夕映えが、恵山のあたりを染める頃、屏風岩は、黒ずんで見え、突堤や岩場にくだける潮しぶきが、特に白く見える。

作者は富浦の町に古くから、住みその古事来歴にくわしく先住民のモノコとセカチが、この泉のほとりで人目を忍ぶ恋の語らいの場所であったと、いう伝説にもとづいて思詠されたのではないかと、想像してみた。

いずれにしても記念碑となると、いやでも傍人の眼にさらされるわけ、なかなか気乗りしなかったが、期限付きなので、渋々ながら書いてみると、なかなか寸法の用紙に収まらない。

空間の取り方など、大きなものよりはるかに難しい。それと、もうひとつ原句のかみ五の出だしが、硬く語呂もどうもしっくりしない。

そこで、作者には悪いと心に詫

富浦集情
市内で一番私の好きなところは

菊地雄峯氏

本名 菊地重雄

書道教授。大正三年五月、宮城県本吉町に生まれる。上

湧別町北湧高小学校卒業、昭和十七年に新日鉄に就職、

昭和四十四年退職。この間、書道の組織づくり、書道展の

開催などに尽力され、現在は創玄書道会(東京)審査員、湖

心社(東京)理事および審査員、道展会友、室蘭書道連盟

顧問、登別書道連盟会長です。

昭和五十年には、室蘭市から文化功労章、昭和五十一年

登別市から社会貢献章を受賞。趣味としては、盆栽、俳

句、絵画鑑賞、焼物収集。ご家庭は奥さまと長男の三人、

お住まいは、市内常盤町一丁目三三―五です。

湖心社展出品作品(昭和51年)「寒翁の馬」



そこで、作者には悪いと心に詫

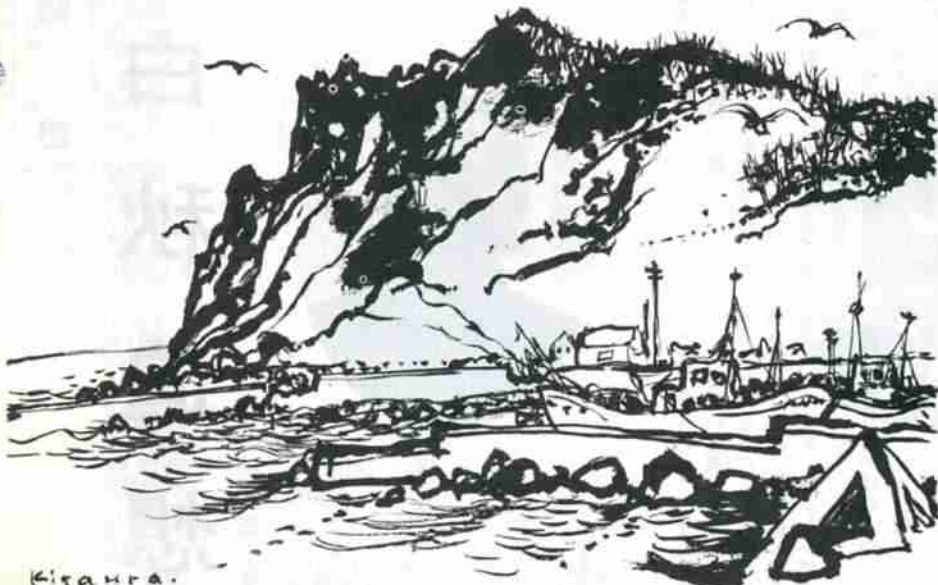
市民文芸

読書感想文作品

路傍の石を読んで

東小四年二組 加地 伯子

路傍の石という話は、子どもの、吾一が
 そだっていく話です。
 わたしが、話しの中で、いちばんつよく感
 じたのは、おかあさんと、吾一が、はなれば
 なれに、なつたところ。おとうさんに、
 吾一は、女中がわりに、つかわれてしまつた
 のです。吾一は、ほんとうは、中学に、はい
 るうと、けっしんしていたのに、吾一を、女



きらら

北浦 晃さん（文化女子大学室蘭短期大学講師）市内鷺別町2-3在住の作品「鷺別岬」

中がわりに、つかうとは、なんてひどいんで
 しょう。わたしは、そう思いました。
 また、吾一がえらい人のところで、はたら
 いていた時、こきつかわれていることです。
 そのさんこくさを、見てわたしなら、とても
 がまんできません。

けれど吾一は、がまんができました。わた
 しは、りっぱだなあと、思いました。
 それにまだ小学生です。それなのに、おかあ
 さんと、小さい時からわかれたなんて、とて
 も、さびしいような、気持です。

けれど、吾一は、のりこえています。吾一
 が小さいときから、働いている間、おかあさん
 がしんでしまいました。
 けれど、吾一と、おかあさんがいつも、い
 っしょであれば、おかあさんが、しないので
 仕むかもしれないと、思いました。みんな、
 吾一の、おとうさんのせいだと、わたしは、
 思いました。

おかあさんがしんでしまつて、吾一の気持
 ちは、どうだつたのでしょうか。
 もう女中がわりに、つかわれるのは、も
 ういやだと思つたかなあ。

わたしならとてもがまんできません。もし
 かしら、自殺するかもしれない。吾一だ
 つてそういう気持ちじゃあないんでしょ
 か。わたしは、そう思います。
 けれども吾一は、あきらめなかつたと、い
 うことにはびつくりした。

それに吾一は、一人でおとうさんを、さが
 しにいった。おとうさんの、うちは、みつか
 ったけれど、その中におとうさんは、いな
 かつた。吾一は、がっかりした。どうしてな
 らうか。作者が、吾一を、いじめているよ
 うな、気がした。わたしだけでも本の中に、
 はいって吾一を、なくさめたかった。
 けれども本の中に、はいると、いうこと
 は、まほうつかいしか、できないことです。
 わたしたちが、どうやって本の中に、はい
 たらいいんでしょ。

わたしは、いままでこんな、かなしい、お
 はなしは、よんだことは、ありません。その
 ほか路傍の石を、よんだ人は、どう思うか知
 りたいです。この路傍の石という、おはなし
 は、人間は、どう生きるべきかを、かいた、
 おはなしだと思えます。

短歌

まだ若き父なりと娘に贈られし
 赤きセーターを元日は着る
 工藤 昭生

雲さきて初日曇なしそそぐとき
 ことしの抱負空にかざせし
 中村 助郎

心燃せし四十一年の勤めかな
 しみじみ妻と初日おろがむ
 吉田 文枝

雲かむりつつ新年の挨拶を交し
 願香に除夜の鐘つく
 高橋 信子

ゴンドラに越へゆく樹海初春の蝦
 夷松の秀は息吐くことし
 白井長流水

る宮居清らの雪つみて

川柳

軋む足音木霊かへしぬ
 石村すず枝

年のたつ朝がすしく白梅の
 ほころび初めぬ祝いの卓に
 志水 点滴

夢無限新雪丸くまるく積み
 初詣神もあきれれるほどの欲
 加納 美舟

頼りない一歩だけれど踏みしめる
 加納 愛山

蛇口からほとばしり出る母の新春
 和山 ヤニ

悔いのない小舟流れのままに

俳句

沢水の音さわやかに草紅葉
 上屋 静風

飯粒でひと升杵の隙子張る
 伊藤白玉石

冬来たる嘘つく顔のピラ並び
 小野たかし

老工の自転車古し冬の径
 鳴海 みわ

友見舞ふ菊をかかえて名を深す
 今野 広人

卯枯れて風浪海猫の声を消す
 市岡美智子

詩



タバコ

提 晴樹

灰皿があり、その中の二、三十
 本程のタバコ。無数の灰、規則的
 ではない。しかし不規則的でもな
 い。動かぬ意志。一つ一つの小さ
 な変化を、静止したままでやって
 のける。それぞれがあらゆる体位
 をとって、動かぬ生命。一つ一つ
 が全く異なった色彩を持ち、全く
 違った世界を持っている。今はも
 う煙も出さない。今は唯黙って捨
 てられる時を待つだけ。なのに、
 何故だろう。彼等は生き生きして
 いる。
 黙って捨てられるのを待つだけ
 なのに……。今、新たなタバコに
 火をつけた。何分間、何秒間の
 中に、生命の全てを焼き尽くす
 その充実。最高の時。それ故、灰
 皿の中で黙って待っていられるの
 だろうか。

郷土史探訪

幌別沖のかじきまぐろ漁

いまの人達は、むかしのアイヌが熊や鹿を毒矢で射止めて餌をしたことは知っているが、海や川で魚を獲ることも、なかなか上手であったことを知らない人が多い。川にのぼって来たサケやマスを獲得するには「シユネ」といって三、四寸幅の長さ二尺位の白樺の皮を五、六枚重ねて、これを長さ三尺くらい木の先を五、六寸割ったところへはさんだものに火をつけ、川面を照してサケを集め、集ったところを「マレク」という特殊な仕掛けのあるヤスで突くおもしろい漁獲法を知っていた。

マレクというのは、アイヌ達にとって網よりも、もっと重要視されたもので、十尺位の手ごろな棒の先へ、一尺位の「ラシユバ」というものを、あざらし、せいいうちの皮でつくった「トラリ」というひもで結びつけたものである。ラシユバの背には五寸位の溝が彫ってあって、マレクの胴にピッタリはまりこむようになっている。これが獲物のからだに突刺るとマレクはこの溝の中からとび出し

て先端が棒の縁に沿ってクルリと回転し、ちょうど鉄の輪のようになってサケやマスが暴れば暴れるほど固くしまつてしまうものである。海流でも、この地方のアイヌは「シリカップ漁」を得意にしていた。シリカップというのはかじきまぐろのことでアイヌ達は好んでこれを食べ、明治三十五、六年ころまで彼らは盛んに出漁したものだといふ。

このシリカップ漁は彼ら独特のもので、昭和十四、五年ころ千葉県の漁師が来て、この地方で盛んにマゴロを獲った「突ン棒」漁法に似ているが、ある意味ではそれよりも、もっと進歩した方法であった。

もっとも舟はすこぶる幼稚な丸木舟で、そのころ村内にも豊富であった大木を伐り出して、長さ一丈五尺、幅二尺五、六寸位に削りあげ、中をくり抜いたものである。浜へ引きあげると、ゴロゴロころがり出すような丸木舟に乗り太平洋にこぎ出すのだから、出漁の前夜は絶対女を近づけない。すっかり身をきよめて宵のうちから着物を着たまま舟の傍に寝、夜半の十二時か、一時ころこぎ出すのである。

五里か六里沖に出たころ夜が明けけるがいよいよ漁場に着くとイナウを神にささげてお祈りする。一日中探しまわっても見つからない時は次の日、朝暗いうちからまたさがしまわり、いよいよ見つけた時は、先まわりしてまっすぐ

頭の方から船をこぎ寄せる。水がにごっている時は、六、七間ぐらいいまで近づくと、水が明るいと三十間ぐらいに追った時、彼らシリカップ・キテと呼ぶ特殊なモリを飛ばす。このモリは長さ二間位の檜の木で造った棒の先に、前記サケを獲る時に使ったような「ラシユバ」がついており、ラシユバの先に鹿の角と金属とで造った「キテ」がついてある。

このキテの小穴に糸が通してあり、さらにイラ草でつくった繩につながついている。このキテ付きの棒が命中するとシリカップは驚いて水中にもぐるが、やがて棒がキテから離れて海面に浮いてくる。キテはシリカップの引く力によって体内で横になり、どんなに暴ばれても抜けてこない。シリカップが元気の良いうちは強く引っ張るので、綱をどんだんのばしてやり、綱がたるむとこちらから引っばって魚を弱らせる。シリカップの大きさによって多

のほりべつ文芸

原稿募集

のほりべつ文芸編集委員会では次のとおり「のほりべつ文芸」第五号の原稿を募集しています。多数応募ください。

- ◎募集作品
 - ・創作・評論 一人一編十枚以内
 - ・随筆 一人一編五枚以内
 - ・詩 一人一編二十行以内
- ※いずれも四百字詰原稿用紙を

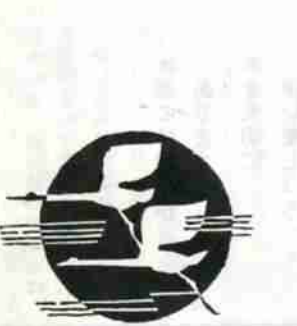
使用するください。

- ・俳句 一人三句以内（自選）
- ・短歌 一人三首以内（自選）
- ・川柳 一人三句以内（自選）
- ※いずれも官製ハガキを使用してください。
- ◎応募資格
 - ・市内に居住する一般住民（小中、高生も含む）
- ◎締切日
 - 昭和五十二年二月二十日まで（当日消印のある物は有効）
- ◎作品の送り先
 - 登別市中央町六丁目十一番地（〒059-103）登別市教育委員会社会教育課内 のほりべつ文芸実行委員会宛
- ◎主催及び選考
 - 登別市文化協会のほりべつ文芸編集委員会
- ◎問い合わせ先
 - 市教育委員会社会教育課（電話5局2111内線352）
- ※なお、掲載された方には「のほりべつ文芸」第五号（三月末刊行予定）を贈呈いたします。

道楽の家



十分な栄養と休息を睡眠をとる。これがいよいよ漁場に着くとイナウを神にささげてお祈りする。一日中探しまわっても見つからない時は次の日、朝暗いうちからまたさがしまわり、いよいよ見つけた時は、先まわりしてまっすぐ



路上駐車はやめましょう。路上駐車により、車の周囲に雪が残るだけでなく、吹雪の時や、夜間には、事故の原因になります。

- ◎歩道や車道に、雪を捨てないようにならしてください。
- ◎路上でのスキー、ソリ遊びはやめましょう。
- ◎道路に器物・商品を置かないようにならしてください。
- ◎なお、除雪車の通過後、家の前等に雪溜りができますが、ご理解の上ご協力ください。

道路を広く使おう

除雪に市民の注意を



冬の交通確保にとって除雪作業は、最も重要なものです。しかも、作業は迅速かつ効果的に進めなければなりません。そのために次の点にご協力ください。

- ◎路上駐車はやめましょう
- ◎歩道や車道に、雪を捨てないようにならしてください。
- ◎路上でのスキー、ソリ遊びはやめましょう。
- ◎道路に器物・商品を置かないようにならしてください。
- ◎なお、除雪車の通過後、家の前等に雪溜りができますが、ご理解の上ご協力ください。

主婦のみなさんお願いします!!

…ゴミの回収に協力を…

廃品の再利用とゴミを少なくする運動は、すでに市民のみなさんのご協力により十月から実施されていますが、まだ空ビンなどが多量に捨てられています。

この貴重な資源をただ捨てるのではなく再利用をし、いっからかでもゴミを少なくするためこの運動



回収運動を展開中の生活学校メンバーたち

を実施していますので、定められた日に必ず出していただくようご協力ください。

○古新聞、雑誌、ダンボールは区分してヒモでしっかりとしばって出してください。

○空ビンはメーカーをとわず、すべてのビンを回収します(油ビンは回収しませんので一般のゴミに出してください)

○ボロ布類はヒモでしばって出してください

○集積場所
現在のゴミステーションに午前九時までに
出してください
(前日には出さないこと)

○廃品回収業者

名称	種別	回収日		廃品回収業者名
		古紙の回収	ビン等の回収	
美園町1丁目~6丁目		19	22	美園町3丁目43 内田商店 6-7643
若草町1丁目~6丁目		19	22	若草町3丁目66 河原商店 6-7731
新生町1丁目~6丁目				
大和町1丁目~4丁目				
富岸町1丁目~3丁目				
若山町1丁目~4丁目		26	29	鷺別町6丁目34 清水商店 6-7083
鷺別町1丁目~6丁目				
緑町1丁目~4丁目		26	29	栄町3丁目4 中田商店 6-7822 46-1166
桜木町1丁目~6丁目				
新川町1丁目~4丁目				
片倉町1丁目~6丁目		11	14	大和町2丁目25 三協資源株式会社 5-4270
富土町1丁目~7丁目				
富木町1丁目~5丁目		18	21	幌別町4丁目20 渡辺商店 5-3475
中央町1丁目~7丁目				
中央町1丁目~6丁目				
歳町1丁目~6丁目		25	28	富浦町1丁目30 小松商店 3-2081
幌別町1丁目~8丁目				
幸町1丁目~6丁目		25	28	鷺別町6丁目37 森藤商店 6-7505
富浦町1丁目~5丁目				
登別東町1丁目~5丁目				
登別本町1丁目~3丁目		26	29	
登別港町1丁目~2丁目				
中登別町				

しっかりと落としてください —水道の水—

寒さが日増しに厳しくなりました。毎日水を落としておやすみください。

また、長期間留守になる場合も必ず水を落しましょう。

○漏水を発見したら、すみやかに水道部(電話5局2111
内線349)へお知らせください。

水道工事指定店	住所	電話
興和工業	登別市幌別町六九二	(5) 2831
磯松建設	登別市富士町七四二	(5) 3271
高橋衛生工業	登別市中央町一一〇	(5) 5585
南荒川設備	登別市栄町三一八	(6) 7138
青木組	登別市輪西町一八八	(4) 0074
備合田設備	登別市中央町三一三	(5) 3142
長門管機工業	登別市若山町一一二	(5) 5190
オール設備	登別市中央町二四一	(5) 2169

○給水工事、故障修繕の場合は水道部または水道工事指定店へ申し込みください。

●水源には限りがあり、水を大切に使いましょう。

○これから、降雪、寒冷と気象的に最も悪い時期に向かいますので次の点に十分注意して、踏切安全通行を行いましょ。

○踏切直前では、必ず一時停止をして左右の安全を確認してから通行する。

○警報無視、しゃ断無視、列車の直前横断などの危険な運転はしない。

○踏切の直前では、スリップにより踏切内に入ることがあるので早目にブレーキをかける。

○堆雪、降雪などにより視界がさかなくなったときは、いったん下車して左右の安全を確認かめたらうえて通行する。

○せまい踏切道での行進は、落輪の原因となるので避けるようにする。

○踏切内では、エンジンのもとになる変速は行わない。

○踏切内で自動車エンジンその他により動けなくなった場合は、車を動かすことよりまず次により列車を止める手配をする。

※復線区間の警報機、しゃ断機のある踏切道には、非常ボタンが設備されているので、このボタンを押して列車を止める。

※非常ボタンの設備のない踏切道では、自動車に備え付けた非常停止用具(非常止)などにより列車を止める。

踏切事故防止を

国鉄からの呼びかけ!!

例年冬期間の踏切事故発生率は夏季の約二倍となっています。

これから、降雪、寒冷と気象的に最も悪い時期に向かいますので次の点に十分注意して、踏切安全通行を行いましょ。

○踏切直前では、必ず一時停止をして左右の安全を確認してから通行する。

○警報無視、しゃ断無視、列車の直前横断などの危険な運転はしない。

○踏切の直前では、スリップにより踏切内に入ることがあるので早目にブレーキをかける。

○堆雪、降雪などにより視界がさかなくなったときは、いったん下車して左右の安全を確認かめたらうえて通行する。

○せまい踏切道での行進は、落輪の原因となるので避けるようにする。

○踏切内では、エンジンのもとになる変速は行わない。

○踏切内で自動車エンジンその他により動けなくなった場合は、車を動かすことよりまず次により列車を止める手配をする。

※復線区間の警報機、しゃ断機のある踏切道には、非常ボタンが設備されているので、このボタンを押して列車を止める。

※非常ボタンの設備のない踏切道では、自動車に備え付けた非常停止用具(非常止)などにより列車を止める。

※非常ボタンの設備のない踏切道では、自動車に備え付けた非常停止用具(非常止)などにより列車を止める。

室蘭、苫小牧より先にテレビの映りを守る「市の要綱」

テレビは私たちの生活にすっかりとけこみ、テレビのない生活は考えられなくなっています。

しかし、道内の各都市では、ビルラッシュにより電波がさかえられ、テレビ画像が悪くなるどころが多くなってきました。

そこで登別市では、NHKと協力し、テレビのうつりが悪くなることを未然に防止するため、昭和五十一年十二月一日から「登別市電波障害防止建築指導要綱」を制定しました。

要綱の内容は、高さが、十

願っています。(市の環境衛生課にもご連絡ください)

○一月の廃品回収日程は表のとおりです。

を超える建築物を建築しようとする。建築主は、建築確認申請書を提出する前に調査をし、進んで住民との話し合いをするなど、積極的に問題の解決にあたるような内容になっています。

なお、該当する建築物の建築を計画されている建築主で、要綱の内容をくわしく知りたい方は、市役所建築指導課審査指導係へお問い合わせください。(電話5局2111内線259)

また、電波障害についての調査は、NHK内北海道電波障害防止協議会室蘭支部に依頼すると無料で調査してくれます。(電話室蘭22局7271)





**鈴木三五郎さん
市長から金盃**

△十二月八日市長が中央町六丁目の鈴木新吉さん宅を訪問、白寿（九十九歳）を迎えた三五郎さんに「おめでとう、いつまでも元気で」とお祝いの金盃を贈りました。



ボランティアスクール
—田村市長が講師—

△福祉活動で善意とやさしい心使いをと、12月8日中央公民館で第2回講座が開かれ、約50人が出席「わがまちの社会福祉とまちづくり」を田村市長が講義、受講者の今後の活動が期待されています。



上手に年をとるには

▷歌に踊りにと名調子を披露、拍手かっさいで大にぎわいでした。十二月十日老人クラブ福祉大会午後からの演芸大会のよう。

成人式には是非

生活の一部にしよう火の点検

日程は次のとおりです。

- 期日 一月十五日
- 場所 登別市総合体育館（若山町二ノ二十六）
- 受付 午前十時三十分
- 式典 十一時～十一時三十分
- 祝賀パーティー 十一時三十分～十二時

※当日は、幌別駅西口から専用バスを運行します。

幌別駅西口発 十時
（婦人青少年係）

支払報告書は、四通複写式となっており、源泉徴収票No.4（本人交付用）は従業員に交付し、のこりの源泉徴収票と給与支払報告書は総括表をつけて、市に提出してください。

ただし、昭和五十二年一月一日現在登別市以外で居住していた方の給与支払報告書は、受給者の住所の市町村宛直接送付してください。（なお、他市町村に送付の際、源泉徴収票のNo.3は、登別市に提出してください）

▽給与支払報告書や法定調書に提出後記載誤りがあったときは、欄外に訂正文と朱書きして、再提出してください。

※提出期限は一月三十一日ですが、切まじかにはこみあいますので、できるだけお早めに提出くださるようお願いいたします。

一月三十一日まで

年末調整事務

登別市では、新たに成人として巣立つ若人の輝かしい前途を祝って、市総合体育館で、式典と、祝賀パーティーを行います。

当日は、各団体の代表もお祝いに出席することになっています。

成人該当者は、昭和三十一年一月十六日～昭和三十三年一月十五日までに生れた方々で、すでに案内状を送付していますが、もし届いていない方は、市教育委員会社会教育課（電話5局2111内線3550、3552）へご連絡ください。

▽給与所得後の源泉徴収票と給与

講演会

大型店の進出の現状と対策

大型店の進出動向等を具体例を引きながらの講演です。

みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

- 講師 日本経済新聞社 清水 幸末氏
- 日時 一月二十日 午後二時
- 場内 登別商工会館
- 入場料 無料
- 主催 登別商工会議所 登別法人会
- 問い合わせ先 登別商工会議所（電話5局4111）

スポーツ短信

カルルススキー場 一月日程

- ▽一月三日 市民スキーサークル
 - ▽一月九日 レディーススタイル会 員研修会
 - ▽一月十六日 市民スキー大会兼 道民スポーツ子進シ ュニア記録会
 - ▽一月二十三日 基礎スキー検定 会会員研修会
- スキー場のコンディションは、カルルススキー場（電話014384局2872）へお問い合わせください。

ご寄贈ありがとうございます
ございます

〈社会福祉協議会へ〉

- 愛情銀行 登別塗装看板業組合殿三万円 休場ヒロ子殿二万五千九百六十六円、小林信殿三万円、みどり母子会一同殿四万円、登別連合町内会・婦人会殿三万一千円、幌別娯楽センター金本美代子殿三十万円、老人クラブ緑寿会殿八千三百二十一円、老人クラブ娯楽会殿七千七百十七円
- 物品寄贈 藤田はつし殿衣類他二十点、登別連合町内会・婦人会殿衣類四百五十点、市和裁サークルこそで会殿肌ジューパン六枚、藤田栄子殿衣類六十一件、匿名二件六十点
- 古切手寄贈 長屋スエ子殿六千枚、小山フミ殿六百枚、山根ヤエ殿千五百三十枚、鹿野邦俊殿千五百枚、幌別婦人会殿二百三十枚、市保健婦一同殿四百八十枚、新和デパート殿七百五十枚、藤上田商会殿千六百枚、休場ヒロ子殿七百八十枚、斎藤藤雄殿五千九百二十枚、老人クラブ緑寿会殿五百二十枚、持丸虎太郎殿二百七十枚、小坂和子殿二千三百枚、富士町地区ボランティアクラブ殿二千枚

おしるべ

今年保育所へ入る方に

(保育所入所児童募集)

市内保育所(上鷲別、鷲別、川上、富士、本町、富浦、登別、登別温泉)の入所児童を募集します。

登別温泉保育所は、今年の四月上旬に定員六十名により開設を予定しています。

▼申請書用紙交付及び受付期間
一月二十日から一月二十八日まで

▼申請書用紙交付及び受付場所
市福祉事務所幼児保育課及び各支所で行います。

▼入所資格
満三歳以上(鷲別、川上、富士各保育所は、生後六カ月以上を含む)で次のような児童です。

・母親が昼間家庭外で仕事をしたり、家庭内で子供と離れて家事以外の仕事をするために、児童を保育できない家庭(ただし、母親以外に保育できる人が居る場合を除く)。
・母親の出産前後か、心身の障害で保育できない家庭。
・母親のいない家庭。

(幼児保育課)

指名願を受付ます

52年度土木・建築工事

市では、昭和五十二年年度の土木および建築工事業者の指名願を、次のとおり受け付けます。

▼申請書
申請書の様式は、北海道指定様式に準じます。

▼提出先
申請書は市土木課管理係へ提出してください。
▼受付期間
第一次
一月二十日から三月十日まで
第二次
四月二十日から五月三十日まで
▼問い合わせ先
市土木課管理係(電話5局2111内線248)

来福橋は通れます

当分は仮通行

来福橋桁架設が終り、一般車両の仮交通をしています。桁上の表面は、一部凹凸が激しいため通行の際は徐行し安全通行にご協力ください。

本橋は、昭和五十二年年度完成の見込みです。

※お気付の点は、市役所土木課道路係へご連絡ください。(電話5局2111内線249)

つながない犬は今すぐ

野犬掃とう実施

昭和五十二年一月一日から三月三十一日まで、野犬掃とうを市内各地で行います。

飼犬は、二層以内のくさりでつなぐか、おり飼いをし、放し飼いのないようにしてください。もし、放し飼いをしているときは、野犬もしくは飼育意志のないものとみなし、捕獲処分しますので、充分注意してください。

方法

・毒えさ(硝酸ストリキニーネをえさに加える)を、けい留されていない犬に投与する。
・麻酔銃による捕獲処分。

・檻による捕獲。
※畜犬または野犬の問い合わせは、市役所環境衛生課(電話5局2958)へご連絡ください。

知っていますか?

家庭児童・母子相談

◎相談日 一月二十日(木)

◎会場 中央公民館 和室

◎受付 午後一時～三時三十分

◎相談内容 子供のしつけ、知能のおくれ、非行相談、視聴器障害、言語障害、心身障害、児童施設入所、その他相談

※相談希望者は、事前に市福祉事務所保護課にご連絡ください。(電話5局2111内線334)

赤ちゃん

予防接種

◎接種上の注意

- ・体温は必ず家で計ってこること。
- ・母子健康手帳を持参すること。

◎対象児

- ・三種混合 第一期 生後24カ月～36カ月未満
第二期 生後36カ月～48カ月未満
- ・ツ反、BCG 生後3カ月～48カ月未満の未接種者

実施場所	時間	予 防 接 種 名			
		三種混合	ツ	反	BCG
ひまわり園	1:00~1:30	1月26日			
鷲別公民館	1:45~2:15	1月26日			
富浜児童館	1:00~1:30	1月25日			
中央公民館	1:00~1:30	1月20日・27日・2月3日			1月27日 2月3日
商工会館	1:00~1:30				1月25日 2月1日
登別公民館	1:00~1:30	1月26日			
登別温泉公民館	2:00~2:30	1月25日			

妊婦・幼児・家族計画

健康相談

◎実施日および場所

- 1月13日…中央公民館
- 1月17日…鷲別公民館
- 1月27日…中央公民館
- 1月31日…登民会館

◎受付時間

- 午前の部…10時～10時30分
- 午後の部…13時～13時30分

◎内 容

- 午前の部…成人病相談、妊婦相談、家族計画相談、幼児相談(1歳以上)
- 午後の部…赤ちゃん相談(6カ月・9カ月児)その他相談のある乳児(1歳未満)

赤ちゃん検診

- ◎内 容
診察、計測、栄養指導、育児指導
- ◎用意するもの
母子健康手帳、換えオムツ、バスタオル

実施月日	受付時間	実施場所	対象地区	対象児
1月18日	12:00~12:30	鷲別公民館	鷲別、支	昭和51年10月生
1月19日	〃	労働福祉センター	本庁管轄	〃
1月21日	12:30~13:00	登民会館	登別・登別温泉支所管轄	昭和51年9月・10月生

3歳児検診

- ◎健診内容
心身の発育状況、歯科検診、栄養指導、生活指導など
- ◎対象者
昭和48年9月1日から昭和49年1月31日までの出生児
- ◎健康手帳をご持参ください。(受診料は無料です)

実施月日	実施場所	受付時間	対象地区(町名)
2月1日	鷲別公民館	10:00~10:30 12:30~13:00	鷲別、栄・上鷲別・大和・若山・新生・若草・美園・富岸
2月2日	中央公民館	10:00~10:30 12:30~13:00	中央・緑・青葉・鉱山・川上・新栄
2月3日	登民会館	12:30~13:00	鷲別温泉・カルルス・中登別・上登別・登別本・登別東・登別港・富浦・札内
2月4日	中央公民館	10:00~10:30 12:30~13:00	富士・柏木(大和・若山・札内) 桜木・新川・片倉・千歳・幸

股関節脱臼検査

- ◎実施月日 1月27日
- ◎実施場所 中央公民館
- ◎実施時間・定員
午前の部 10時30分～11時(25名)
午後の部 13時～14時(25名)
- ◎用意するもの
母子健康手帳、換えオムツ
- ◎申し込み先
市保健衛生課(電話5局2111内線244)
- ※申し込み受付は、定員になり次第締切らせていただきます。

